

事務事業評価表(既存事業)

コード 5-7-5	事務事業名 障害者(児)移送サービス事業	所管部課 保健福祉部障害福祉課
--------------	-------------------------	--------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 身体に障害があるために、外出の困難な者の日常生活の利便及び、生活圏の拡大のため、ハンディキャブを運行する。	総合計画上の位置づけ (政策)笑顔で暮らすまちづくり (施策)障害者福祉の充実(笑2-3) (主要施策)移送サービスの拡充
	実施内容、実施方法 ・障害のため車いすを使用しなければ外出が困難な方及び重度の視覚障害者 ・保谷庁舎を中心とし半径30kmの範囲を運行し利用時間等の制限あり。 ・利用料は無料 ・NPO法人に委託して実施する。	根拠法令等 西東京市ハンディキャブ運行事業実施要綱
	事業開始時期 平成 13 年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()

評価指標の設定	活動指標名 PR回数	活動指標の考え方(定義) 広報、ホームページ、しよりの配布
	成果指標名 利用者延人数	成果指標の考え方(定義) 移送サービスを利用している延人数
	運行時間	運行している総時間

		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
事務事業データ	事業費(A)		16,917	16,851	20,682	22,519	
	国庫支出金	千円					
	都支出金		5,639	5,617	6,894	7,506	
	地方債						
	その他						
	一般財源		11,278	11,234	13,788	15,013	
	所要人員(B)	人	0.10	0.10	0.10	0.10	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	825	827	833	833	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	17,742	17,678	21,515	23,352	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(利用者延人数)	千円	6	6	8		
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	回			4	4
		実績値	回	3	3	3	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	人			2,600	2,700	
	実績値	人	2,976	3,107	2,563		
成果指標	目標値	時間			5,500	5,600	
	実績値	時間	5,557	5,390	5,249		

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	予約が取れない、台数を増やして欲しいとの要望がある。
	国・都・他市・民間等 における類似事業	26市中ほとんどの市で類似事業あり。NPO法人、社会福祉法人、民間でも類似事業あり。
	運営上の制約条件・ 外部要因等	特になし

コード 5-7-5	事務事業名 障害者(児)移送サービス事業	所管部課 保健福祉部障害福祉課
--------------	-------------------------	--------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	新たに利用を始める人が毎月おり、認知が広がっていると思われる。制限的に早朝(6:30～)、夜間(～22:00)の運行も実施しており、多様な利用者の要望に答えている。
	必要性 <input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	通院時間が集中することもあり、リフト付車両の台数は充分とは言えず、車イス利用の方々のニーズに応えるためには必要である。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	年末年始を除き通年運行している。緊急の連絡は休日でも対応している。運行コーディネートにも熟知しており問題ない。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input type="checkbox"/> 問題なし <input checked="" type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	利用料は無料で、回数制限なしで先着順のため、公平性に欠ける面がある。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	移動困難者は増加傾向にあり、必要性がある。

17年度における改善点	公平性の問題を解決するためには、他の移送に関わる事業、社会福祉法人、NPO法人、民間事業者の移送サービスとの関わりの中で、包括的に検討することが必要であるので、その検討を進める。
-------------	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

- 実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など
- 必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など
- 効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など
- 公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など
- 総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。
 - 拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。
 - 継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。
 - 改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。
 - 抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。
 - 廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。